

# 県内避難者支援 みえで仲間をつくり隊！

東日本大震災により、東北・関東から多くの方が三重県内各地に避難し生活をされています。震災から2年を過ぎた現在も避難される方は増えており、今もふるさとから遠く離れた三重での避難生活や生活再建に、不安を感じる声が絶えません。

みえ災害ボランティア支援センターが、そういった県内避難者の方々の支援を実施するために、平成23年7月から活動している「みえで仲間をつくり隊！」も2年目となりました。三重県の情報提供や交流を主な活動とした平成23年度とは趣を変え、三重県での生活をより楽しんでいただく事を目的に、センタースタッフ、事務局ボランティア、企業・団体の協力を得て取り組んできました。

## 【主な活動内容】

- ◆ 県内情報誌「月刊 Simple」の定期的な発送
- ◆ 県内各地でイベント等を楽しむ「楽しみ隊」の開催
- ◆ ホームページ等での情報提供、活動報告

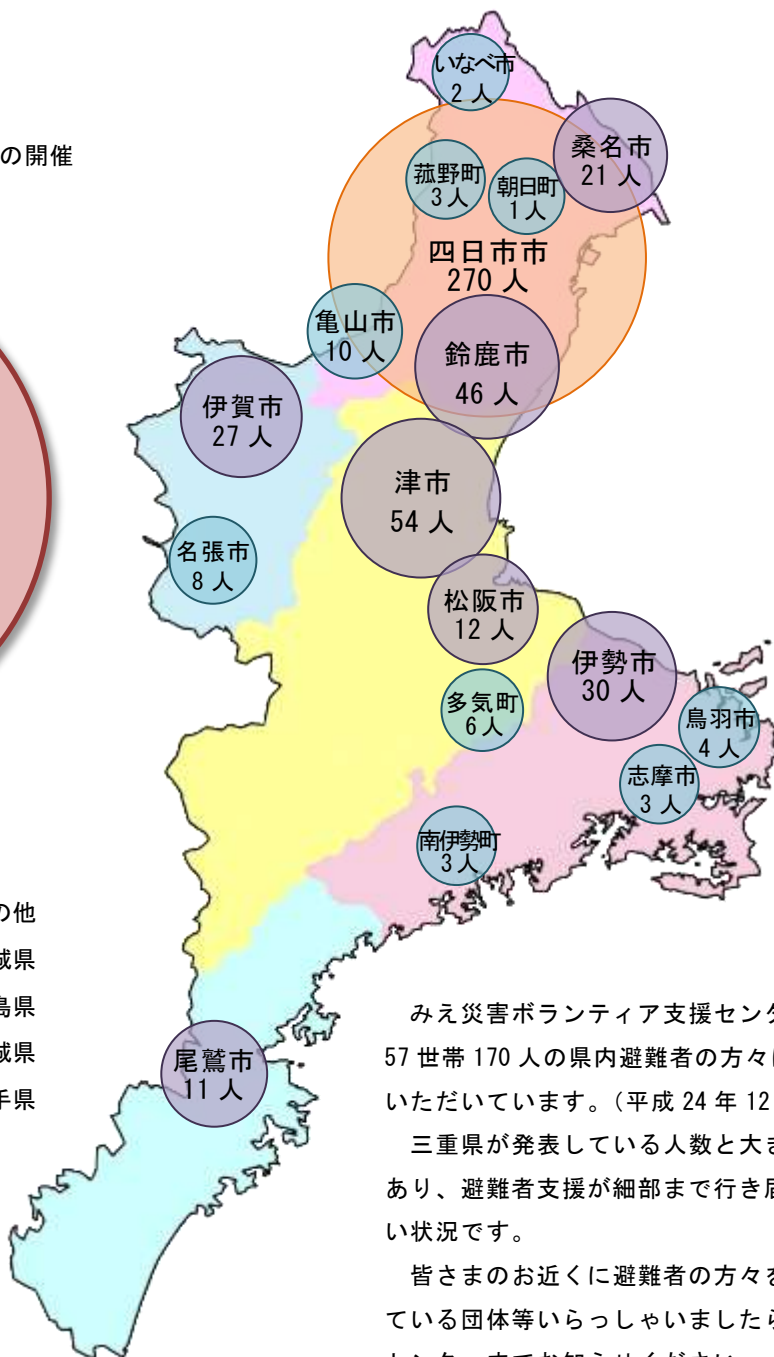
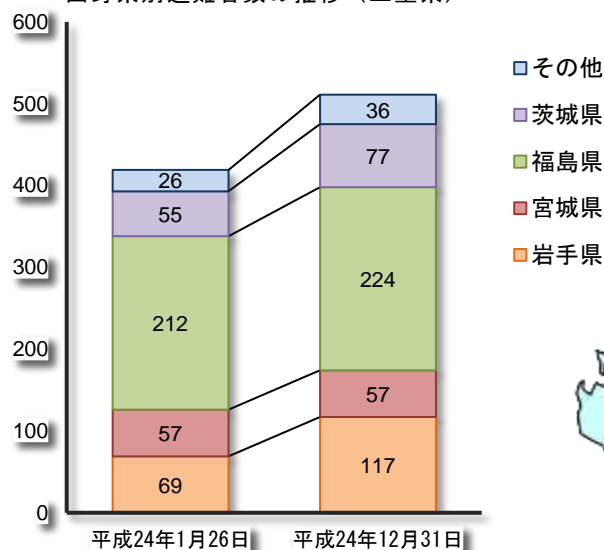
## 東日本大震災に伴う 被災地からの各市町別 被災者受け入れ状況

平成24年12月31日  
三重県公式発表

計 511 人

平成24年1月26日比 92人増

出身県別避難者数の推移（三重県）



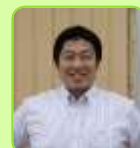
みえ災害ボランティア支援センターには、57世帯170人の県内避難者の方々にご登録をいただいています。（平成24年12月末現在）三重県が発表している人数と大きな差異があり、避難者支援が細部まで行き届いていない状況です。

皆さまのお近くに避難者の方々の支援されている団体等いらっしゃいましたら、ぜひ当センターまでお知らせください。

## ○ 県内避難者支援「みえで仲間をつくり隊！」に携わって

メディアという立場から、“情報”、“影響力”という点で、少しでもご協力ができることがあれば活動に参加させていただくこととなりました。避難者の方々の生活の不安を取り除けるようにとスタートすることができたのは、私共が発行する月刊誌「Simple」の毎月送付でした。センターのご支持もあり、三重県内の様々な情報をお届けすることができました。情報が情報を生み、そこで行動が生まれて交流につながる。小さなことですが、ひとつのことが大きなことへとつながるように、誌面を通して、また「みえで仲間をつくり隊！」などの活動を通して、一人でも多くの方々の笑顔を見られるようにお手伝いを続けてまいりました。これからもこの輪を広げられるように頑張ります。

株式会社 ZERO 月刊 Simple 編集部 早川 篤さん



## ■交流イベント「楽しみ隊」

県内各地でイベントを開催し楽しんでいただく「楽しみ隊」は、開催回数を昨年度の1回から4回に増加。ゆったりとした一時を過していただくものから、テーマパークで楽しんでいただくものまで、様々なプログラムを企画し開催しました。

第2回 楽しみ隊 in 希望荘  
開催日 2月25日(土)  
会場：湯の山温泉 希望荘  
参加者数：24人



(参加者の声)

- ・今日はとてもくつろげました。他の方とも交流ができました。
- ・産地を書いてほしい。なるべく東北産はさげたい。今日はすごく楽しかった。
- ・お風呂もゆったりとして入れたし、お餅もとてもおいしくいただきました。

第3回 楽しみ隊 in 玉城  
開催日 5月20日(日)  
会場：アスパia玉城  
参加者数：45人



(参加者の声)

- ・非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。多くの方と話をさせていただきました。
- ・いちご狩りもジャム作りも楽しかった。新しい友達も出来て、交流を通して連絡をとることが出来た。

○「楽しみ隊」活動の企画・運営に携わって

昨年11月に「楽しみ隊」の企画で、三重県内に避難された方々と一緒にテントの設営や食事の準備を行い、家庭的な雰囲気の会場での昼食は忘れられない味になりました。その1年と少し前には座談会形式の「しゃべり隊」という企画でハイハイをしていた赤ちゃんが、その「楽しみ隊」の時には会場を歩き回るようになっていて、時間の経過と、一時避難ではない形に変化している事に、今後も何か一緒に出来る事があれば関わっていきたくて考えております。



事務局ボランティア 享紺 浩明さん

第5回 楽しみ隊 in 二見  
開催日 10月20日(土)  
会場：二見シーパラダイス  
参加者数：23人

(参加者の声)

- ・定期的に被災者の方と顔を合せて、今後のことなど少しでも話せる機会をもてるので、うれしく思っています。
- ・同じ顔のメンバーをみる事が多くなり、行事参加は楽しいです。
- ・岩手には水族館がありませんのでとても楽しく拝見させていただきました。



○「楽しみ隊」活動の企画・運営に携わって

ボラパック第1便参加以降被災地に行くこともなく、申し訳なく中途半端な気持ちでいたところ、センターから「みえで仲間をつくり隊」の活動に声をかけていただきました。中でも「楽しみ隊」は、避難されてきた方々が気がねなく楽しく一日を過ごし、三重の良さを知り、なじんでいただくことが目的でもありましたので、あれこれと企画を考えるのもとても楽しく、これまでやってきて、むしろ自分のほうが元気をもらっていた感じがします。



事務局ボランティア 高橋 昌子さん

第6回 楽しみ隊 in 関宿  
開催日 11月17日(土)  
会場：亀山市関宿 石垣屋  
参加者数：9人



(参加者の声)

- ・また参加させて頂きたいと思います。
- ・関宿がとても楽しかったので、また来たいと思います。

○事務局ボランティアとして「みえで仲間をつくり隊！」に携わって

まず第一に伝えたいことは「ありがとうございます」の一言です。私がみえ災害ボランティア支援センターのボランティアに登録した経緯は、全てを放って逃げたという罪悪感と、東北の為に何かしなければという焦燥感からで、決してポジティブな動機ではありませんでした。ひょんなことから仲間づくり隊のメンバーに加えていただき、皆さん忙しい中夜遅くまで話し合ったり、下見や当日の準備などを行う姿を間近で見て本当に頭が下がるばかりです。おかげでイベント当日は非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。先のことはまだ何もわかりませんが、東北復興の為に微力を尽くしたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひします。



事務局ボランティア 本多 修子さん

## ■生活支援（コープみえ・くらしすけあいの会協働事業）

東日本大震災で三重県に避難されている方々への支援の一つとして、平成24年7月1日から平成25年1月31日までコープみえ・くらしすけあいの会のシステムを活用し、利用料等の一部を協働し支援しました。

【主な活動内容】

- ・家事（掃除・洗濯・調理など）
- ・買い物
- ・高齢者や障害をお持ちの方の簡単なお手伝い
- ・託児
- ・趣味、社会活動参加の援助
- ・病院の予約や、薬の受け取りなど
- ・外出や散歩のつきそい
- ・非営利団体やサークル、グループ等の団体育児
- ・その他、くらしすけあいの会の趣旨に反しない活動

○「困った時はお互いさま」 コープみえ・くらしすけあいの会 辻 陽子さん

「県内の避難者は、母子家庭が多いんです。」という山本センター長の言葉に、私たちでも何かお手伝いできるのではないかと思いました。そして年会費や利用料をくらしすけあいの会とみえ災害ボランティア支援センターの負担として協働事業が始まりました。活動した内容は「上の子の通院時に下の子を見守りすること」「掃除と話し相手」「転居の際の庭の草取り」でした。みなさんご主人と離れて、見知らぬ土地で暮らすことへの不安や将来の心配などたくさんあると思います。「困った時はお互いさま」が合言葉のたすけあいの会が、このような形での役立ちができたことを大変うれしく思います。次年度も何らかの協力ができればと感じています。

